

1. 海外視察報告: イギリスにおける学校と地域等の連携(2)

2012年10月に国立行政法人教員研修センターが主催する「教育課題研修指導者海外派遣プログラム」にシニアアドバイザーとして参加する機会を得ました。そこで得られた知見をもとに、イギリスの学校レポート第二弾をお届けします。

PFI(Private Finance Initiative)はかつて日本(高松)でも導入されましたので、仕組みについてはご存じの方も多いと思います。PFI方式とは民間資金を行政運営の特定の部門に積極的に取り入れようというものです。類似する言葉に、NPM(New Public Management)やPPP(Public-Private Partnership)などがあって、どれも行政のリスク分散と民間ノウハウの活用を狙っているようです。今回は、民間の資金を活用して校舎を建設し、文字通り地域の学校となっている、ロンドンにあるハバーストック・コミュニティスクールを取り上げます。資金提供は鹿島建設が行っていて、設計や建設はもちろんのこと、その後の施設運営にも大きな役割を果たしています。

鹿島建設と行政当局は、具体的にどのような契約を結んでいるのでしょうか。10年を経過した現時点では、校舎は鹿島建設の所有のままです。学校のあるウィークデイは行政が有料で借り受けて中等学校として運営しているようなイメージです。厳密に言えば建設ローンを返済している形でしょうから、「賃料=ローン返済」になり、返済が完了する25年後には行政当局に所有権が移る仕組みです。夜間や休日、長期休暇中は鹿島建設の関連会社が運営し、収益事業としての成人講座を開催したり、貸し館にしたり、施設の有効活用をしています。通常、学校の設置目的は明確ですから、行政が建てるとすれば占有施設として用途は限られます。どんなに素晴らしい施設や多くの人に使って欲しい設備があっても夜間や休日は休ませるしかありません。PFI方式はその意味で公的な施設の活用に関与する取組なのです。



【写真1: オープンスクールの様子】



【写真2: 校舎の外観】

しかし、多様な運営を認めようとする調整の必要が出てきます。その役割を理事会が担うことになりませんが、公立学校における理事会の存在が興味を引きましたので紹介します。私立学校の理事会を知り尽くしているわけではありませんが、公立学校のそれは校長、保護者代表、同窓会代表、地元代表、スポンサー(企業等)代表、行政関係者、その他学校に関係のある者、で構成されているようです。学校は交付金以外に寄付等による財源をもっていますので、学校運営に関する発言を実現するためにその財源が投入されます。当然、そこには報告義務や成果評価が付随して、結果的に理事会の責任が発生します。例えば、生徒に高い国語能力をつけさせようという方針が決まれば、指導力が高くて授業が上手な先生に白羽の矢を立て、学校独自の給料上乘せ分を提示してヘッドハンティングすることもあります。一定の期間を過ぎても効果が出なかった場合には、理事会に責任が問われることになります。最悪の場合は理事長や校長の退任ということもありえるのです。とても厳しい世界です。



【写真3: 食育の授業を見学】



【写真4:ジャパンプラブのメンバーと筆者】

鹿島建設は日本の企業ですから、ハバーストックでは日本との交流に力を入れています。クラブ活動に"Japan Club"があり、日本語や日本文化について生徒たちが熱心に学んでいました。昨年の夏には京都や東京を拠点に異文化交流体験を行ったそうです。歴史的な文化遺産や近代的な街並みとともに、イギリスでは経験できない異常な暑さと湿度の日本も堪能したようです。そのクラブのメンバーが学校案内にも同行してくれて、易しい英語で丁寧に解説してくれました。異国での心温まる交流となりました。

(文責:清國祐二)

2. 瀬戸内国際芸術祭香川大学プロジェクト～FM815と連携した特番制作～

今年2013年は、3年毎に開催される瀬戸内国際芸術祭が開催される年です。このたび、香川大学プロジェクトの経費を活用して、芸術祭の夏および秋期間中に、FM高松コミュニティ放送(FM815)にて芸術祭に関する番組を制作・放送することとなりました。放送日時は右の通りに決定しておりますので、お知らせします。

番組は、香川大学の学生たちとともに制作します。番組タイトル、内容、等々については、現在検討中です。近日中に番組ブログを開設し、制作裏話や収録秘話、放送できなかった内容などについて情報発信する予定です。

どのような番組になるか、乞うご期待！

		本放送	再放送
		毎週水曜日	毎週土曜日
		22:00～22:30	15:30～16:00
夏	第1回	7月24日	7月27日
	第2回	7月31日	8月3日
	第3回	8月7日	8月10日
	第4回	8月14日	8月17日
	第5回	8月21日	8月24日
	第6回	8月28日	8月31日
秋	第7回	10月9日	10月12日
	第8回	10月16日	10月19日
	第9回	10月23日	10月26日
	第10回	10月30日	11月2日

(文責:山本珠美)

3. 生涯学習教育研究センターにマスコットが誕生～愛称募集中！～

生涯学習教育研究センターにマスコットが誕生しました。「我輩はフクロウである。名前はまだ無い。」…ということで、愛称を募集します！！

採用された方(一名)には、賞品を進呈いたします(なお、同一名称に複数の方から募集があった場合は、抽選となります)。

多くのご応募をお待ちしております。

応募資格 学内外を問わず、誰でも応募できます。
 応募方法 メール、またはセンター備え付けの用紙に、
 ①お名前、②ご住所、③愛称をご記入の上、
 下記メールアドレスに送って頂くか、またはセンター備え付け
 用紙を当センター事務室までご提出下さい。
 お一人様いくつでもご応募いただけます。
 メール syogse@ao.kagawa-u.ac.jp
 締切 平成25(2013)年7月31日(水) 17:00
 ※採用された方には、賞品を進呈いたします。



センター雑感

新年度がはじまって二ヶ月、キャンパスは少し落ち着いてきました。当センターでは今年も公開講座を30講座ご用意しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧下さい。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp

1. 生涯学習教育研究センターのマスコット名称が決まりました！

先に本センターHP上にてご報告しておりますが、マスコット・キャラクターの愛称が決定いたしました。50日ほどの募集期間で66件のご応募をいただきました。選考委員会での公正な審議の後に、以下の4件の愛称を選定いたしました。香川大学で生き生きと学ぶ方々の多様性を、漢字・カタカナ・ひらがな・(英字)によって表しています。



コウイチロウ博士

〔理由〕所在地が幸町1丁目で、フクロウがモチーフだから
佐藤慶太様(高松市)



スタッピー

〔理由〕:学ぶ幸せを表現
study+happy=stuppy
池永一広様(高槻市)



ちえる

〔理由〕知恵とアウル(owl)、知恵を得る、をイメージ
朝倉 修様(札幌市)



翼

〔理由〕大学歌から。
翼を広げるイメージも。
池永一広様(高槻市)

優秀賞を受賞された方々への記念品が10月末に完成しましたので、ご披露いたします。高松市牟礼町在住の石材所社長の落合賢さんに制作依頼したフクロウの記念の楯です。全国的にも有名な香川県特産の庵治石でできている贅沢なフクロウの置物です。サイズは縦横12.5cmの正方形の台座の上に、止まり木にとまったフクロウ(17cm)が載っています。重量4.5kgと大きさの割にずっしり重い感じがします。(お値段は秘密。)

写真は、高松市に在住の「コウイチロウ博士」の愛称で優秀賞を獲得した佐藤慶太さんに記念品の贈呈をした際に写したものです。ご応募くださった皆さま、どうもありがとうございました。

これからも多くの方々に気軽に学びに来られる大学となるよう努力いたします。



2. 夏休み公開セミナー報告

7月24日(水)13:30~15:30、高松市二番丁コミュニティセンター調理室において、小学生を対象とした公開セミナー「紫いもでおいし〜い科学実験」が開催されました。セミナーの先生を務めたのは香大生。当センター山本珠美准教授が教育学部で開講している「社会教育課題研究2」を受講した教育学部の3年生10人です。紫いもに含まれるアントシアニンが、酸性・アルカリ性によって色が変わるという性質を用いて、きれいな紫いものケーキを作るにはどうすれば良いかを学びました。作ったケーキは最後に子どもたちと一緒に美味しく頂きました。



翌7月31日(水) 13:30～15:30には、三豊市市民センターにおいて、同じく小学生を対象とする公開セミナー「みんなで飛ばそうフィルムロケット」も開催されました。今回も先生は香大生。フィルムケースを使い、高学年には圧電素子を使って飛ばすタイプのロケットを、低学年には入浴剤(バブ)を使うタイプのロケットを制作しました。圧電素子タイプのロケットは、爆音を伴い体育館の天井まで届くほどです(入浴剤タイプは半分程度)。子どもたちが飽きずに何度も何度も繰り返しロケットを飛ばしていたのが印象的でした。



大学生は、自分たちが主催で講座を実施するのははじめてであり、どちらの公開セミナーも実施に至るまでの準備は大変でした。しかし、子どもたちの笑顔にたくさん出会えて、苦労が報われました！

3. 高瀬大学の受講生が香川大学生涯学習教育研究センターへ

10月31日(木)に、高瀬大学(三豊市高瀬公民館講座:いわゆる高齢者大学)の受講生が香川大学生涯学習教育研究センターに本物の大学を味わいにお見えになりました。大学生と席を並べることはできませんでしたが、大学に初めてお見えになる方も多く、最初はやや緊張した面持ちでセンター第一講義室へ入ってこられました。大学からは清國祐二センター長がお出迎えをし、みなさんに大学の空気を感じてもらいました。

清國センター長が歓迎の挨拶を述べた後、「高齢期の社会参加・貢献」という演題の講話を行い、受講生は1時間ほど熱心に聞き入っておりまして。受講生は地域で第3の人生を有意義に過ごしていってほしいです。自分の今、そして地域の今と重ね合わせて理解を深めておられました。

講義終了後は、香川大学博物館の企画展「神原甚造の蒐集物(コレクション)ー旧香川大学・香川医科大学統合十周年記念ー」の見学をされました。(詳細は香川大学博物館のフェイスブックをご覧ください。)



センター雑感

去る7月9日、昭和60年度から28年間にわたり公開講座をご担当下さいました稲富健一郎名誉教授がお亡くなりになりました。11月25日に先生を追悼する会を執り行います。その様子は次号にてご報告いたします。(山本)

バックナンバーは下記のWebサイトに掲載されています。是非ご覧ください。

Tel. 087-832-1273 Fax. 087-832-1275 URL. <http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/> Email. syogse@ao.kagawa-u.ac.jp